

な村落として機能していた可能性があります強まり、何らかの官衙施設の存在も想定されるようになった。

なお(1)(2)ともその証文・内容などについて、国立歴史民俗博物館の平川南氏よりご教示を得た。

## 9 関係文献

- ①伊興遺跡調査会『伊興遺跡——下水道敷設工事に伴う発掘調査』（一九九七年）  
②酒井清治・松本晃「東京都足立区伊興遺跡出土の陶質土器について」（韓式土器研究』VI 一九九六年）

（佐々木彰）



(1)裏

# 東京・丸の内三丁目遺跡

所在地 東京都千代田区丸ノ内三丁目

調査期間 一九九二年（平4）一月～一〇月

発掘機関 (財)東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター  
調査担当者 西脇俊郎・上條朝宏・栗城譲一・竹尾進・武笠

多恵子・岩橋陽一・小林裕

遺跡の種類 武家屋敷跡

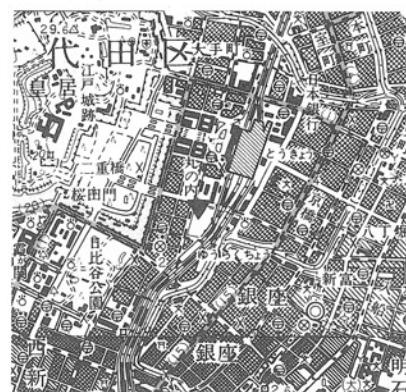
遺跡の年代 江戸時代

遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地はJR有楽町駅北西側の、旧都府跡地（現在の東京国際フ

オーラム）に位置する。

調査地周辺は、江戸時代



（東京東北部・東京東南部）

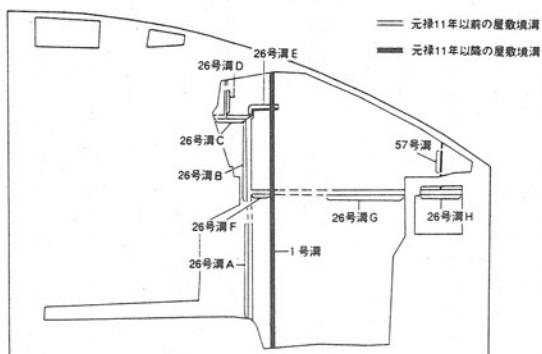
初めに日比谷入江を埋立てた地域である。慶長二三年（一六〇八）頃の様子を描いたとされる『慶長江戸絵図』によると、当地域には山内対馬守・彦坂小刑部・森（毛利）伊予守・福島掃

部・竹中伊豆・青山五郎八が屋敷を構えていた。その後、明暦の大  
火（一六五七）などの火事により、盛土・整地が行なわれ、幾度か  
の屋敷替えを経て、元禄一一年（一六九八）の大火後、調査地北側  
が土佐高知藩二四万石松平（山内）土佐守の上屋敷、南側が阿波徳  
島藩二五万石松平（蜂須賀）阿波守の上屋敷となり幕末に至る。

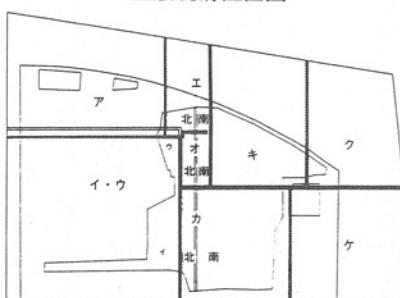
本調査地域で、元禄大火以前に屋敷を構えた大名・旗本は、幕府  
代官頭・江戸町代官（奉行）彦坂小刑部元正、大和松山藩三万石福  
島掃部頭高晴（福島正則の弟）、豊後府内藩竹中伊豆守、竹中筑後守  
重信（豊後府内藩主の弟）、書院番士青山五郎八、上総佐貫藩一万五  
千石松平出雲守、豊後佐伯藩二万石毛利市三郎、丹波柏原藩三万六  
千石織田刑部、出羽左沢藩一万二千石酒井右近、伊勢長島七千石後  
に三河刈谷藩一万一千石松平能登守、旗本三千石神尾宮内、甲斐徳  
美藩一万二千石伊丹藏人、中村藩三万石（土佐高知藩支藩）山内修理  
(土佐山内忠義の二男)、旗本五千石坂部三十郎、大和新庄藩一万石  
永井韁負、三河岡崎藩五万石水野右衛門、旗本一千石荒川土佐守、  
小田原藩一一万三千石大久保安芸守、旗本松平伊予守である。

検出された遺構は、石垣溝（屋敷境）・溝・井戸・木樋・竹樋・地  
下室・土坑・瓦溜・埋桶・埋甕・木組遺構・瓦組遺構・石組遺構・  
建物跡など多種にわたる。遺構は屋敷の配置・整地層中の焼土層及  
び出土遺物などから、元禄一一年以前とそれ以降の二時期に分けら  
れる。元禄一一年以降の遺構は、旧都廈の建物により上部が破壊

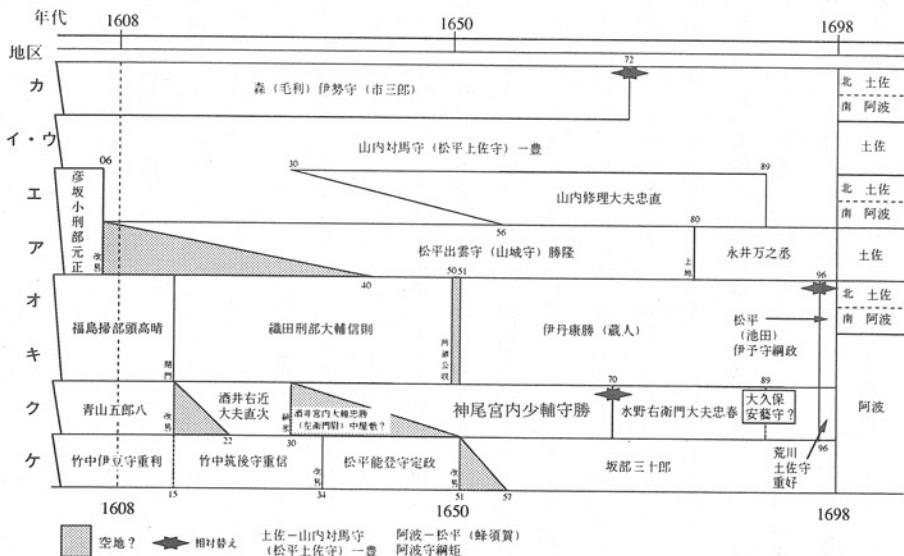
されており、山内・蜂須賀両家の屋敷境である石垣溝・井戸・木樋  
など一部を除き極めて遺存状態が悪い。元禄一一年以前の遺構は、  
盛土・整地層の下部から検出されたため比較的良好な遺存状態であ  
る。整地層中からは、明暦の大火・元禄一年の大火に伴う焼土層  
や元禄一一年以前の屋敷境である石垣溝・土坑・木組遺構・瓦組遺  
構・石組遺構・建物跡などが検出されている。この石垣溝は、「慶  
長江戸絵図」の屋敷割りとほぼ一致するものである。



屋敷境溝位置図



屋敷割り復元図



調査区域周辺の屋敷割りと居住者の変遷

遺物は、調査地が低地に位置することから、陶磁器・土器・金属製品などのほか、木簡・人形・下駄などの木製品や漆椀などの漆製品などが多量に出土した。木簡は、桶や曲物の蓋・将棋駒などを含めて、計一八七点ある。また、木製品以外にも陶器・磁器・土器に墨書したものが一五五点出土している。また、遺物以外で地下室・木樋・井戸桶などに、墨書しているものもある。

木簡は、元禄一年以降の遺構で一・二号溝、元禄一年以前の遺構で二六号溝G・H、二八号溝、四一・四八・四九・五一・五二・六三・六八・七八・八二・八九・九〇・九一号土坑から出土している。

一号溝は、山内・蜂須賀両家の屋敷境で元禄一年以降幕末まで利用されていた石垣溝である。一四点出土。

二号溝は、山内家の屋敷内の溝である。一点出土。

二六号溝G・Hは、元禄一年以前の屋敷境の石垣溝である。Gはカとキの境、Hはオとキ・クの境である。G・Hとともに三点出土。

二八号溝は、ウ地区(山内家の屋敷)から検出された木組溝である。一点出土。

四八・四九・五一・五二・六八・七八・八九・九〇・九一号土坑

は、カ地区の最下層(毛利家の屋敷)から検出された土坑である。

五二号土坑は規模が大きく、他の土坑とは異なり周囲に一部杭列が認められることから池であった可能性も考えられる。一点点出土。

四九号土坑は、藩主毛利高成の戒名<sup>(15)</sup>や人名が記された木簡が二〇〇点出土しており、法要などに使用されたあと廃棄された土坑と考えられる。その他の土坑は、ゴミ穴と考えられる。四八・五一・六八・八九・九〇・九一号土坑が各一点、七八号土坑が二点出土。

四一号土坑は、キ地区から検出された方形の土坑である。土坑内からは、口縁部を上にし重ねられた多量の土器皿・炭化した麻の幹のような植物の茎と、覆土下層から呪符木簡一二点が出土した(46)(57)。土坑の壁面等には熱を受けた痕跡は認められないことから、呪符木簡は、屋敷の地相や家相・魔除け・災害除け・方違えなどに土器皿・麻の幹とともに使用された後、埋納されたものと考えられる。

六三号土坑は、ア地区から検出された土坑である。一点出土。

八二号土坑は、ク地区から検出された土坑である。一点出土。

#### 8 木簡の訣文・内容

##### 一 号 溝

(1) 「○塩川九右衛門 (印)

八枚之内但式枚

「万治元年  
○女泊札」

」

90×40×8 011

• 「遠江表

○御免 鶴塚村七人

御門御守〔衛カ〕様

• 「高□□

○□□

申六月ヨリ

• 「○釜跡 伝内」

○木札 証内

• 「○釜跡 伝内」

○木札 証内

• 「○御門御番頭様御中

○御門出札扣(押印)  
□屋 □兵衛

• 「○御門出□  
塩川九郎兵衛」

121×65×8 022

104×74×6 011

78×22×7 011

(5) 「○論人方  
南十七組様」

〔十七組様〕

86×29×1 011

(6) 「七夕」

「升六内  
土州一」

32×21×6 021

二八号溝

「升六内  
土州一」

「□辺半右衛門」

「□□□」

「紀カ  
□岡上村佐右衛門」

55×26×6 011

「松平土佐守様□  
(記号)[<sup>カ</sup>]  
○□箱一荷物」

「江戸上やしき江  
(記号)[<sup>カ</sup>]  
○□焚  
□百之  
□之承  
□承カ」

177×39×5 011

78

「□□□」

「□四斗入」

173×25×7 011

二六号溝G

(9) 「上御屋敷  
○岡本弥平太殿  
江戸衣類入  
「上御屋敷御内用方  
○岡本弥平太殿 同唯七」

(12) 「下村□四郎様 弥三右衛門」

「長物耳桶 土州浦戸」

152×25×4 011

二号溝

「□□□御内  
○御門制入  
○九月□□七  
拾八枚之内」

法量不明 011

(13) 「▽礼錢拾五貫文 川本差右衛門」

275×25×6 033

二六号溝H

(10) 「□□□御内  
○御門制入  
○九月□□七  
拾八枚之内」

119×27×1 011

四八号土坑

(14) 「為処得□究意減」

90×56×6 011

(15) 「天折日空粲大禪定門様」

155×30×1 051

(16)	「性譽折忌大禪定門様」	161×30×2 051
(17)	「喜獄妙歎大姉様」	162×27×2 051
(18)	「やひやうへ おはる むめ」	148×27×1 051
(19)	「ふけつ」	(129)×26×1 059
(20)	「□は 三かいはんりん かりんみん」	144×32×2 051
(21)	「どうせう殿」	(136)×31×2 019
(22)	「につしん ち、殿 は、殿」	145×27×2 051
(23)	「しゅんでい殿」	146×29×2 051
(24)	「とし殿 めうちう殿」	152×26×2 051
(25)	「おぢ殿 ち、殿 なわ殿」	150×27×2 051
(26)	「おもつ おつかま 清かん」	(156)×26×2 051
(27)	「えしん殿 上しん殿 おひれ」	132×27×2 051
(28)	「ち、殿 は、殿」	153×24×2 051
(29)	「せうせう殿」	154×26×2 051
(30)	「藤五郎 おねい 百助様」	144×27×2 051
(31)	「遣一えもん殿 めうちう殿 あに殿」	140×26×2 051
(32)	・「く小原村ふるしゆく市十郎」	148×25×4 033
(33)	・「く末殿甚兵衛」	(105)×18×4 019

五一号土坑

- (34) • 「▽くしめわひ 二月五日□」  
• 「▽くしめわい」

177×21×5 032

五一号土坑

- (35) • 「▽。御十四才年至まで」  
• 「▽。□□□」

278×35×7 032

- (36) • 「▽大角大夫札  
山くら兵衛様方  
五平入」

」

208×25×9 033

- (37) • 「▽中村栄甫」  
• 「▽十八樽ノ内」  
• 「▽<sup>[黒木カ]</sup>九郎九郎」

175×36×6 032

- (38) • 「▽へろ木高九郎」

144×21×4 032

- (39) • 「○すきやろちより  
みなみくらのわき」  
• 「○にいてしゃりいのかわ」(表裏刻書)

82×29×5 011

六八号土坑

- (40) • 「○寛永拾一年  
○戌ノ五月十六日  
鷺塚九右衛門宿(花押)」  
• 「○壱人」

90×62×10 011

七八号土坑

- (41) • 「○荷物十八之内  
塩鮎四百七尾入」

205×46×8 011

- (42)

- 「○毛利市三郎内」  
• 「○<sup>[久組カ]</sup>川崎九左衛門」  
• 「○荷物」

157×28×5 051

- (43) 九一号土坑  
 「毛利市三郎様御屋敷  
 ○美河空助様  
 日榮堂」  
 「○壇類八拾三入」  
 八九号土坑
- (44) 宽永拾六年六月廿九日  
 ○江戸大出ち延□秋山□左衛門  
 但堀俵二付□ち五斗入湯川長右衛門  
 「」  
 「」  
 八九号土坑
- (45) 九〇号土坑  
 「△□□□本尺四本」  
 193×25×4 032
- (46) (梵字)  
 「」  
 142×41×2 011
- (47) (梵字)  
 「」  
 法量不明 011
- (48) (梵字)  
 「」  
 145×36×2 011
- (49) (梵字)  
 「」  
 144×42×2 011
- (50) (梵字)  
 「」  
 145×40×1 011
- (51) (梵字)  
 「」  
 147×42×1 011

(51)	「  」	(梵字)	「  」	(梵字)	「  」	(梵字)
〔西昂〕	金金金白	(符籙)	「  」	黄土	「  」	黄土
〔三〕	金金金白	(符籙)	「  」	(符籙)	「  」	(符籙)
〔梵字〕	(梵字)	(サクカ)	(サクカ)	(サクカ)	(サクカ)	(サクカ)
〔  〕	(サクカ)	(サクカ)	(サクカ)	(サクカ)	(サクカ)	(サクカ)
〔タラーグ〕	赤火悟故十方塞	「  」	「  」	池田藤右衛門	「  」	池田藤右衛門
〔  〕	赤火悟故十方塞	「  」	「  」	六三卯土坑	「  」	六三卯土坑
〔オハ〕	(アツ)(梵字)	(アツ)(梵字)	(アツ)(梵字)	○。池田藤右衛門	(アツ)(梵字)	○。池田藤右衛門
〔  〕	(アツ)(梵字)	(アツ)(梵字)	(アツ)(梵字)	八二卯士坑	(アツ)(梵字)	八二卯士坑
〔ウーン〕	青木迷故三界城	「  」	「  」	○。御やくら	「  」	○。御やくら
〔  〕	青木迷故三界城	「  」	「  」	「  」	「  」	「  」
〔梵字〕	(符籙) 暗々如律令	(符籙) 暗々如律令	(符籙) 暗々如律令	「  」	「  」	「  」
〔  〕	「  」	「  」	「  」	「  」	「  」	「  」
〔  〕	「  」	「  」	「  」	「  」	「  」	「  」
〔  〕	「  」	「  」	「  」	「  」	「  」	「  」
〔  〕	黑水何處有南北	「  」	「  」	「  」	「  」	「  」
〔  〕	黑水何處有南北	「  」	「  」	「  」	「  」	「  」
〔  〕	白金本来元東西	「  」	「  」	「  」	「  」	「  」
〔  〕	白金本来元東西	「  」	「  」	「  」	「  」	「  」
(52)	(サクカ)	(サクカ)	(サクカ)	144×36×3 011	(サクカ)	143×40×2 011
(53)	(サクカ)	(サクカ)	(サクカ)	142×41×2 011	(サクカ)	143×40×2 011
(54)	(アツ)(梵字)	(アツ)(梵字)	(アツ)(梵字)	139×42×1 011	(アツ)(梵字)	139×42×1 011
(55)	(梵字)	(梵字)	(梵字)	144×43×2 011	(梵字)	144×43×2 011
(56)	(梵字)	(梵字)	(梵字)	142×43×1 011	(梵字)	142×43×1 011
(57)	(アツ)	(アツ)	(アツ)	72×23×5 011	(アツ)	72×23×5 011
(58)	○。御やくら	○。御やくら	○。御やくら	130×15×4 032	○。御やくら	130×15×4 032
(59)	「  」	「  」	「  」	「  」	「  」	「  」
(60)	「。西の御くら」	「。西の御くら」	「。西の御くら」	(表裏刻書)	「。西の御くら」	(表裏刻書)
(61)	「。御やくら」	「。御やくら」	「。御やくら」	「。御やくら」	「。御やくら」	「。御やくら」
(62)	「。サ五分口	「。サ五分口	「。サ五分口	「。サ五分口」	「。サ五分口」	「。サ五分口」
(63)	「。壱朱一六文」	「。壱朱一六文」	「。壱朱一六文」	「。壱朱一六文」	「。壱朱一六文」	「。壱朱一六文」
(64)	「。金壱両」	「。金壱両」	「。金壱両」	「。金壱両」	「。金壱両」	「。金壱両」
(65)	131×33×9 011	131×33×9 011	131×33×9 011	131×33×9 011	131×33×9 011	131×33×9 011

- (62) • 「応照院様御之〔織カ〕  
○目取紙八拾七束壱二リニメ  
〔久らんカ〕」
- (63) • 「毛利市三郎〔毛利カ〕  
○紙とうかん 酒田太郎  
〔並〕」
- (64) • 「於江戸二毛利市三郎内  
○長崎道兵衛様  
庄〔彦カ〕」
- (65) • 「式月廿三日江戸大名町筋  
○龍冥大定〔内八分〕之内  
○五升日」
- (66) • 「○長崎甚右衛門  
○(花押) (印)」
- 「○松平阿波内  
○藤田貞賢」
- (67) • 「△毛利市三郎様御やしき御賄様  
□味五介□□□屋」
- (68) • 「△毛利□」
- (69) • 「○森市二郎様  
○燻ぶり柿 斎藤權右衛門  
包入六廻り」
- 「○燻ぶり柿 斎藤權右衛門□」
- (70) • 「△久助殿大喜兵衛」
- 「△久助殿大喜兵衛」
- (71) 260×62×7 011
- 261×64×11 011
- 206×26×5 032
- 108×29×3 032
- 235×40×6 032
- 206×26×7 011
- 施されてくる。
- 木簡の糀文については、報告書作成時に青山学院大学大学院生（当時）岩下哲典氏が担当したものを引用させていただいた。
- 9 関係文献
- 東京都埋蔵文化財センター「丸の内二丁目遺跡」（一九九四年）  
(小林 裕)